

行政視察内容報告書



令和2年4月20日

土佐清水市議会議長

永野 裕夫 様

会派名 議国会派みらい

(提出者) 氏名 浅尾 公厚



下記のとおり報告します。

項 目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	作田 喜秋・谷口 佳保・武政 健三・山崎 誠一・吉村 政朗・浅尾 公厚 計 6 人
期 日	令和 2年 2月 6日 から 2年 2月 7日 まで

【概要】(年月日・場所・内容)

○室戸市役所 令和2年2月6日 午後2時～

○キラメッセ室戸 令和2年2月7日 午前9時～

○道の駅「とろむ」 令和2年2月7日 午前10時30分～

2月6日ふるさと納税について室戸市の取り組みを学ぶ

午後2時室戸市役所に到着、会議室に通された。課長・補佐が入って来るなり、オオグソクムシの味・食べ方についてのテレビ局の取材を受けていて遅くなったと謝罪を受けた。このテレビ局やマスコミを活用していることにまず驚嘆した。

納税額が上がった経緯や商品の製造などについての話を聞いた。

商品の説明に入ると、力のこもった説明を受けた。品物は、まず見聞して、自分で匂いや味、見た目等確かめる。次に、料理屋などに持ち込み研究と一緒に作り、商品を作ってもらい、そして、いい商品ができれば、業者に製造を依頼しているとのこと、また、驚嘆した。

一番大事なのは、いい品物があつたら世間に知らすこと、知ってもらうこと。そのためには、テレビ、新聞、雑誌等の会社にアタックして室戸の品物をアピールしてもらうことが大事。課長はそのため、自ら足を運んでいるという。マスコミを多めに利用しないとだめだと力説され、またまた驚嘆。

最後は、業者とも打ち合わせはすごくしており、必ず自ら品物は試食をしてからでなければならぬと力のこもった説明を受けた。研究心がすごいと感じた。

ただ、驚嘆するばかりで、3時間の時間が短く感じた。

【所 感】

2月7日補佐が、キラメッセ室戸と道の駅「とろむ」を案内してくれた。

キラメッセ室戸は、平日にもかかわらずレストラン、売店の客は多く、ここも驚嘆した。

キンメダイや野菜、漬物や干物、海洋深層水で作ったアイスクリームなど室戸市でとれるものを販売しており、道の駅のような感じ。店員の対応もよく、老若男女が買いたくなるような雰囲気、味もよし。

道の駅「とろむ」はシーズンオフということもあったのか客はいなかった。補佐が社員にお願いしてくれて、「カツオの藁焼き」を実演してくれた。社員の対応がすごく上手で、説明しながら実演をしてくれた。

社員曰く、返礼品が集中（年2回）したときに、日々、時間を正確に配送できるか？また、集中したときに藁が間に合わない時が多々あるとのことで、室戸の農家を回って「どうにかこうにか手に入れている」と言う。そこだけは心配しているとのこと。

本市においても、イベントなどの藁焼き体験では同じ状況ではないかと感じた。

2日間を通して感じたことは、室戸市の職員やキラメッセ室戸、道の駅「とろむ」の社員など全員の取り組みがすごいこと、商品に対する思いがすごいこと、マスコミをどのように活用したら、こちらに向いてくれるのか、日々努力していた。本市においては、品物、品数も室戸より数倍多くあり、マスコミを利用すべきであると言われた。

本市の返礼品は、素晴らしい品物がたくさんあり、清水だけしか無い品物もたくさんある。これからは清水は清水の品物を返礼品として使い、清水にはない品物を取り入れて返礼品として取り扱うのでもなく、今あるものを使うべき。

地道な努力を努力を積み重ねていき、これからは、マスコミを今以上に利用し、清水は清水にあるものを返礼とすればいいのではないのでしょうか。